



Rainbow ~伝統を繋ぎ煌めく未来へ~

「始めに言葉ありき」言葉は大事！ どんな言葉を使うかはもっと大事！！

「始めに言葉ありき」とは、「新約聖書『ヨハネによる福音書』第1章から」創世は神の言葉（ロゴス）からはじまった。言葉はすなわち神であり、この世界の根源として神が存在するということが、ネットの辞書に掲載されています。

また、日本では「言霊」と言うことが昔から言われています。同じネットの辞書では、「古代日本で、言葉に宿っていると信じられていた不思議な力。発した言葉どおりの結果を現す力があるとされた。」とあります。

洋の東西を問わず、言葉には「力」があることが推測できます。

そして、その言葉を最も身近で、且つ最初に聞くのは、言葉を発する自分自身です。

前向きな、元気の出る言葉を使いたいですね。「どうせ」「どうでも」「だって」など“D”で始まる言葉を使っていると、自分がよくなる気がしません。一方「やるぞ」「よっしゃ」「やったー」など“Y”で始まる言葉を使うと勢いがある、前向きな気持ちになれます。独り言でも、心の中でつぶやく内言語においても次のようでありたいものです。人生が、運気が好転してくることでしょう。

“D”の言葉 → “Y”の言葉

また、言葉が相手に向かう場合、次の韓国の諺のようにありたいと思います。

「行く言葉が美しければ、来る言葉が美しい」

日本にも、下のような詩があります。北原白秋作とも、読み人知らずとも言われています。考えさせられます。

一つの言葉
(作者不詳)

一つの言葉で
けんかして、

一つの言葉で
仲直り。

一つの言葉で
頭が下がり、

一つの言葉で
笑い合い、

一つの言葉で
泣かされる。

一つの言葉は
それぞれに、

一つの心を
もっている。

きれいな言葉は
きれいな心、

優しい言葉は
優しい心。

一つの言葉を
大切に、

一つの言葉を
美しく。

自分を大切に、そして自分で自分を育てていこう！！

自分を大切にできる人は、他人も大切にできると思います。

自分を大切にすることは、他者との比較の中で自分をだめだと卑下しないことでもあります。何かができる、あるいは好ましい自分だけを選別して認めるのではなく、何かができない、劣っている自分であっても、あるがままの自分を認め許し受け入れ、なおかつ地に足をつけて今の現実の自分を少しでもよくしようと努力することです。そうした努力を通して、人は着実に成長し、立派になっていきますし、幸せになれます。

自分をどう育てるかが重要です。例えば掃除です。能力にかかわらず、誰にもできませんが、自分をきれいにするように一生懸命、本気で取り組むとなるとなかなかきついものがあります。

自分を育てるとは、他者に勝ることではなく、昨日の自分自身を超えていく行いであり、何かのために、誰かのためにできることです。そうできる人は、きっと社会に出てから、多くの人に認められ、引き立てられ、より幸せな人生になっていくことでしょう。

自分を育む

谷川俊太郎

悪い二つろと善い二つろ

悪いことと善いこと

ふたつはからみあっている

木に巻きついた蔓のように

自分をはぐくむのは難しい

自分を枯らすのは簡単だ

あなたを導くのは

ほかでもないあなた自身

あなたはあなた自身を超えていく

自分を発見し続けることで

自分を大切にみつめたい

今日も明日もいつまでも

心を育み、脳を活性化する読書

本校を卒業すると大部分の人が就職しますが、自分がイメージした仕事内容と現実が大きく異なっていて、こんなはずではなかったと継続するか止めるか悩むことも時としてあるかもしれません。万が一そうなった場合どんな気持ちで、どう対応するか示唆を与えてくれます。



『オズの世界』 小森陽一 著 集英社文庫

大学を卒業して新入社員として地方の遊園地で働き始めた女性が主人公です。学生時代ディズニーランドでキャストとしてアルバイトをしていて、就職先はディズニーランドと決めていたものの就職試験に不合格となり、ホテルに就職するも遊園地に派遣で、何の希望も見いだせない中で、様々な課題に仲間と奮闘する中で意識が変化し、大きく成長する物語です。面白いです。